令和２年度　多賀城高等学校　学校経営方針

Ⅰ　経営方針

本校の教育目標である「さとく」「ゆたかに」「たくましく」を踏まえ，将来の社会の建設者としてふさわしい人間性の育成に向け，身に付けて欲しい能力・資質として，

「さとく」　→　＜①問題解決能力，②聞く力・発表する力，③知識・技能の習得＞
「ゆたかに」　→　＜④礼節と人間力＞
「たくましく」→　＜⑤キャリア発達，⑥防災・減災の担い手＞

の６項目を重点化して掲げ，生徒の成長を支援する教育の実践を図る。また，そのための環境整備に努める。

Ⅱ　教育活動上の重点目標

①問題解決能力の育成

課題研究や探究型学習を通して，問題解決や問題発見に向けて主体的に考え行動できる力を養うとともに，チームで協働して取り組む姿勢・手法を獲得させる教育活動を実践する。また，課外活動や学校行事において諸問題に柔軟に対応したり，他者との議論により視点や考え方を深める等への支援を行う。

［具体的な活動の場面（例）］
課題研究，アクティブ・ラーニング型授業による探究活動，ワークショップでの議論，野外巡検等でのフィールドワーク，課外活動での自主的研究，学校行事の主体的運営

②聞く力・発表する力の育成

授業，学校行事，課外活動等を通して，他人の話を素直に聞き理解する姿勢・能力を育成する。また，教科書等の書籍を正しく読み込み，内容を理解の上活用する力を指導したい。それらを土台として自らの考えや研究成果を他人に分かりやすく話し伝えることができるよう，様々な機会を通じて支援する。

［具体的な活動の場面（例）］
「くらしと安全」等での講義と議論，各種講演会，クラスや部活動での話し合い，
生徒総会や委員会活動，課題研究等探究活動での資料読み取り，教科書を読み解くこと，
他校交流等での議論，課題研究等の成果分析と発表，学会やシンポジウム参加，
進路志望理由書作成

③知識・技能の習得と理解の深化

従来型の学力育成が生徒の資質・能力を高める前提であることに鑑み，授業改善を中心として知識と技能の習得，並びに理解の深化に努める。また，クラスや学年を中心として学習習慣を定着させる指導計画を立案・実践する。

［具体的な活動の場面（例）］
予習・復習等学習習慣の確立，日常の授業，学習計画作成とその妥当性の検証，
課題研究計画の立案と実施，校外研修の事前事後指導，進路学習計画の立案と実践，
定期考査や模擬試験の事前事後指導，ポートフォリオを利用した学習改善

④礼節と人間力を身に付け，高めること

学校生活の全ての場面を通じ，社会の一員としてふさわしい良識，礼節を身に付けることができるよう必要な指導を行う。さらに，よりよい社会の建設者として積極的な役割を果たせる人間力の伸長を期し，さまざまな機会を活用して支援する。

［具体的な活動の場面（例）］

挨拶励行，服装等の指導，交通マナーの指導，提出物の期限を守ること，約束の厳守，家庭との連携，家族間の会話を大切にすること，丁寧な言葉遣い，他人を尊重する態度，始業時間に遅れないこと，清掃活動への取組，学習や部活動等を継続して行うこと，学校行事への積極的な参加，各種研修・大会等での人との応対，地域行事への協力

⑤生徒のキャリア発達を図る進路指導の実践

生徒が自らの適性を知ること，学問や職業に関する学習，さらに進学・就職への自らの志を見つめる機会を提供し，生徒個々人の主体的・積極的で適切な進路選択と実現を支援する。

［具体的な活動の場面（例）］

進路希望調査，面談指導，科目選択指導，進路学習計画作成，職業を学ぶ，学問を知る，ｱｶﾃﾞﾐｯｸ・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ，進路講演会，模擬試験（事前・事後指導を含む），志望理由書の作成，受験ｼｽﾃﾑを知る

⑥防災・減災の担い手を育成する

防災・減災教育のパイロットスクールとして防災・減災に係る様々な知識・技能を学び，地域の防災・減災のリーダーとしての資質を養うための教育計画を立案・実践する。

［具体的な活動の場面（例）］

「くらしと安全Ａ・Ｂ」をはじめとする学校設定科目による学習，避難訓練，防災ｼﾞｭﾆｱﾘｰﾀﾞｰ育成合宿，メモリアルデイ参加，各種学会・シンポジウムへの参加，ファシリテーター研修，県外生徒との交流，Zoom 等を利用した国際交流，県外研修への参加，地域ボランティアへの参加，科学部や語学研究部の活動，まち歩き活動，波高標識設置活動，震災伝承活動